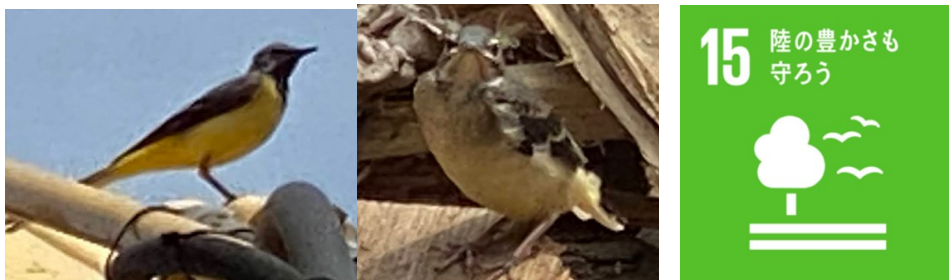


環境経営レポート



キセキレイの親子(毎年春施設内に営巣)

(2022年10月～2023年9月)



2023年12月20日

1. 組織の概要

- (1) 事業者名：ヨシムラ環境整備株式会社
 (2) 代表者：代表取締役 吉村 学
 (3) 設立：昭和 55 年（1980 年）10 月 1 日
 (4) 資本金：320 万円
 (5) 所在地：

本社・工場：広島市安佐北区安佐町大字久地字堀切山 10625 番地 10 他

- (6) 事業内容：

産業廃棄物収集運搬業, 産業廃棄物中間処理業, 一般貨物自動車運送事業

- (7) 事業の規模

①売上高および工事件数等

項 目		単 位	2022 年度
売上高		百万円	128
産業廃棄物処理量	収集・運搬	トン	1360
	中間処理	トン	1324

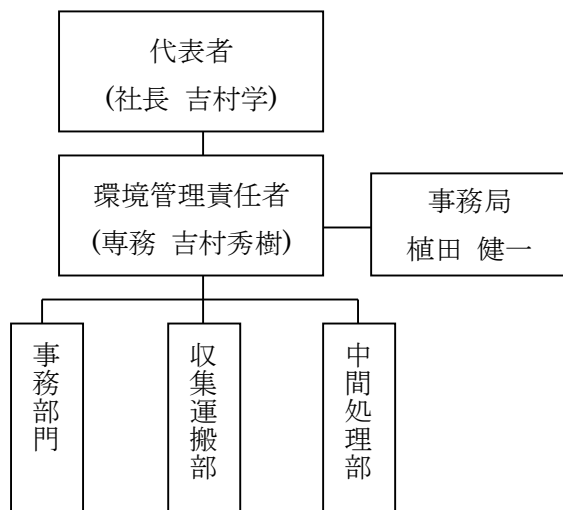
(注) 事業年度：10 月～翌年 9 月（エコアクション 21 運用年度も同じ）

②従業員数：9 人

③床面積：本社事務所 29 m²、工場・作業所等 1802 m²

- (8) 連絡先：環境管理責任者 吉村 秀樹（TEL:082-837-1841）

- (9) 組織図



役割・責任・権限

- 代表者
 - ・ EA21 システムの統括
 - ・ 環境経営方針の策定
 - ・ 実施体制の構築
 - ・ 全体の評価と見直し
- 環境管理責任者
 - ・ EA21 システムの構築・運用
 - ・ 上記用状況の代表者への報告
- 事務局
 - ・ 環境管理責任者の補佐
- 各部門長
 - ・ 各部門に関連する活動計画の実行等 EA21 システムの統括
- 従業員
 - ・ 環境経営方針や各自の役割を理解し、環境活動に取り組む

2. 対象範囲（認証登録範囲）

全組織・全活動を対象範囲とします。

3. 環境経営方針

本業である廃棄物処理を適正かつ安全に行うとともに、地球温暖化問題への取り組みや地域の環境活動に自主的・積極的に取り組みます。

1. 環境影響に配慮した事業活動の継続的改善

①電力・燃料の消費に伴う二酸化炭素排出量の削減に努めます。

②中間処理業務における再資源化率の向上に努めます。

③節水、グリーン購入に努めます。

2. 法規則等の遵守

事業に関係する諸法令、規則、地域協定を順守し廃棄物の適正処理に努めます。

制定日： 2015 年 1 月 20 日

改定日： 2020 年 10 月 1 日

代表取締役社長 吉村 学

4. 環境経営目標、環境経営計画、環境経営目標の実績

(1) 環境経営目標

環境への負荷の自己チェックの結果などを踏まえ、「環境経営目標」を以下のとおり定めました。

また取扱量の増減による電気及び化石燃料使用量の変動に伴う二酸化炭素排出量の増減に対応するため、当該項目において取扱量の単位あたりの目標値を設定することとします。

目標設定表

項目		2022年度	2023年度	2024年度	2025年度
電気使用量の削減 [基準: 5.610 kwh/t]		△5% 5.330 kwh/t	△6% 5.273 kwh/t	△7% 5.271 kwh/t	△8% 5.161 kwh/t
化石燃料 使用量の 削減	ガソリン [基準: 3.338 ℓ /t]	△5% 3.171 ℓ /t	△6% 3.138 ℓ /t	△7% 3.104 ℓ /t	△8% 3.071 ℓ /t
	軽油(処分業) [基準: 4.271 ℓ /t]	△2% 4.186 ℓ /t	△3% 4.143 ℓ /t	△4% 4.100 ℓ /t	△5% 4.057 ℓ /t
	軽油(収運業) [基準: 26.479 ℓ /t]	△5% 25.155 ℓ /t	△6% 24.890 ℓ /t	△7% 24.625 ℓ /t	△8% 24.361 ℓ /t
電気及び化石燃料使用に伴う 二酸化炭素排出量の削減 [基準: 85.316 kg-CO2/t]		△5% 81.050 kg-CO2/t	△6% 80.197 kg-CO2/t	△7% 79.344 kg-CO2/t	△8% 78.491 kg-CO2/t
再資源化率の向上 [基準: 72%]		△5% 82 %	△6% 84 %	△7% 86 %	△8% 88 %
節水 [基準: 65 m ³]		△5% 61 m ³	△6% 61 m ³	△7% 60 m ³	△8% 59 m ³
グリーン購入の推進		5品目以上	5品目以上	5品目以上	5品目以上

(注) 1. 電気使用量削減の基準値は 2017 年度同期間の実績値を同年中間処理量 (=1, 724. 4589t) で除した値、化石燃料使用量(軽油(処分業)を除く)の削減基準値は 2017 年度実績値を同年収集運搬量 (=1, 584. 1295t) で除した値、節水の基準値は 2017 年度実績値とした。軽油(処分業)は 2020 年度同期間の実績値を同年中間処理量 (=1, 743. 6626t) で除した値とした。なお「電気及び化石燃料使用に伴う二酸化炭素排出量の削減」の目標値算出は、下記[表 1]の通りとした。

2. 一般廃棄物は、排出量が少ないことから削減目標は設定していないが、分別等の取組は徹底することとしています。

3. 化学物質は使用していません。

【表 1】基準年（2017 年度）における二酸化炭素排出量の原単位評価指標の設定

基準年：2017 年度	実数	原単位指標
電気からの二酸化炭素排出量 (Kg-CO2) ※	6, 469. 899	3. 75184
中間処理量 (t)	1, 724. 4589	
化石燃料からの二酸化炭素排出量 (Kg-CO2)	129, 207. 819	81. 56392
収集運搬処理量 (t)	1, 584. 1295	
□二酸化炭素排出量の総量 (Kg-CO2)	135, 678	85. 316

※中国電力の 2017 年度排出係数 0. 677 kg-CO2/kWh を用いて設定した。

(2) 2022 年度の環境目標達成状況

項 目		単 位	目 標 値	実 績	評価
電気使用量の削減		Kwh/t	5.330	7.945	×
化石燃料使用量の削減	ガソリン	ℓ/t	3.171	1.447	○
	軽油(収運業)		25.155	26.959	×
	軽油(処分業)		4.057	6.535	×
電気及び化石燃料使用に伴う二酸化炭素排出量の削減	二酸化炭素	kg-CO2/t	81.050	95.150	×
再資源化率の向上		%	82	80	×
節水		m ³	61	90	×
グリーン購入の推進			5 品目以上	5 品目	○

上記、電気及び化石燃料使用に伴う二酸化炭素排出量実績は、95.150kg-CO₂/t となり、目標値 81.050kg-CO₂/t に対し、117.40%との結果となった。(購入電力の二酸化炭素排出係数は、中国電力の 2017 年度の調整後排出係数 0.677kg-CO₂/kwh を使用した。) また、実績値の算出については下記[表 2]を参照の事。

【表 2】各項目の原単位評価指標への変換

2022 年度	実数	原単位指標
(a) 電気からの二酸化炭素排出量 (Kg-CO ₂)	7,124.071	(a)/(b)=
(b) 中間処理量 (t)	1,324.415	(A) 5.37903 (Kg-CO ₂ /t)
(c) 化石燃料(処分)からの二酸化炭素排出量 (Kg-CO ₂)	22,329.9	(c)/(b)= (C') 16.8602 (Kg-CO ₂ /t)
(d) 化石燃料(収運)からの二酸化炭素排出量 (Kg-CO ₂)	99,217.2	(d)/(e)= (C'') 72.91115 (Kg-CO ₂ /t)
(e) 収集運搬処理量 (t)	1,360.796	(C')+(C'')= (C) 89.77135 (Kg-CO ₂ /t)
□二酸化炭素排出量の総量 (Kg-CO ₂)	128,671.2	(A)+(C)=95.15038 (Kg-CO ₂ /t)
(f) 電気使用量 (kwh)	10,523	(f)/(b)=7.94540 (kWh/t)
(g) ガソリン使用量 (ℓ)	1,969.24	(g)/(e)=1.44712 (ℓ/t)
(h) 軽油(収運業)使用量 (ℓ)	36,685.49	(h)/(e)=26.95885 (ℓ/t)
(i) 軽油(処分業)使用量(ℓ)	8,655.00	(i)/(b)=6.534961 (ℓ/t)

5. 主要な環境活動計画の内容と取り組み結果の評価、次年度の環境経営目標及び環境経営計画

環境目標の項目毎の環境活動計画の内容と取り組み結果の評価を以下に示します。

(1) 電気使用量の削減

目標達成できなかった。

引き続き電気使用量削減に努める

(2) 化石燃料使用量の削減

概ね達成できた。

・ガソリン(営業車)

営業ルートの効率化、エコドライブを引き続き実践する。

・軽油(産業廃棄物収集運搬業、運送業)

目標値に達成していない。更なる運搬ルートの効率化を図るとともにエコドライブの実践を徹底する。

・軽油(産業廃棄物処分業)

目標値に達成していない。「空転」時間を短縮するなど工夫する。

(3) 産業廃棄物再資源化の徹底

前年対比では6ポイント上昇しているが、目標値(82%)に達成していない。更なる分別の徹底を図る。

(4) 節水

目標達成できていない。夏場使用する冷却ミスト導入を検討する。

(5) グリーン購入の推進

目標達成している。

引き続きグリーン購入に取り組むこととする。

(6) その他の活動

《具体的な活動内容の一例》

(広島県資源循環協会の行事に参加)



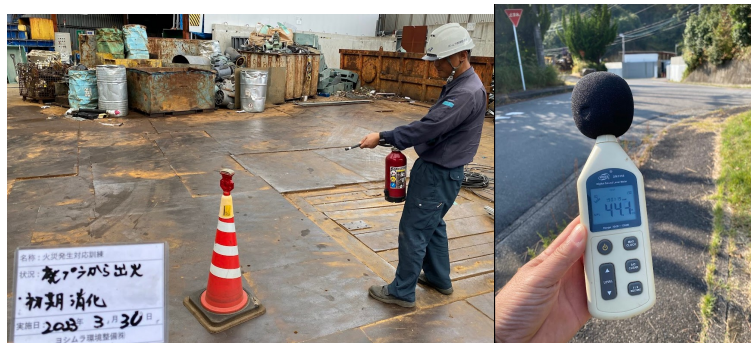
(日常点検)



タイヤ空気圧確認

ウォッシャー液補充

(初期消火訓練・騒音調査)



（７）次年度（2022 年度）の環境経営目標及び環境経営計画

項目		単位	目標値	環境経営計画
電気使用量の削減		kwh/t	5.273	① エアコン設定温度の管理（事務所） ※冷房28度、暖房20度 ② エアコンフィルターの清掃（年2回以上） ③ 不要照明の消灯 ④断熱遮熱の推進
化石燃料 使用量の 削減	ガソリン	ℓ /t	3.138	①営業ルートの効率化
	軽油(処分業)	ℓ /t	4.015	①破碎機及び重機の省エネ運転
	軽油(収運業)	ℓ /t	24.89	①ふんわりスタートの実施 ②車両の日常点検の励行
再資源化率の向上		%	84	①分別の徹底
節水		m³	61	①業務全般に渡る節水
グリーン購入の推進		-	5品目以上	①購入品の調査・リスト作成 ②エコマーク商品調査 ③グリーン購入対象商品の特定・目標設定

6. 環境関連法規制等の遵守状況

適用される主な環境関連法規制は廃棄物処理法です。遵守評価の結果、環境法規制等の逸脱はありませんでした。また、過去３年間、当局からの違反の指摘や訴訟もありませんでした。

7. 代表者による全体評価と見直しの指示

昨年度同様に各項目のほぼ全てが目標値に対して未達になっているが、日々の仕事の安全性、量、質の維持及び向上を考えれば数値上の未達はやむを得ないと考ええる。

今後も単に数値ばかりに追われる事無く、安全に各作業に取り組んで頂きたい。

8. 廃棄物処理業に関する情報

(1) 許可の内容

①一般廃棄物

なし

②産業廃棄物

a 許可品目

許可品目	収集運搬業(上段:許可年月日 下段:有効年月日)						処分業
	広島市	広島県	山口県	岡山県	島根県	鳥取県	広島市
	2018/10/12 2025/10/11	2018/11/24 2025/11/23	2019/10/13 2026/10/12	2018/10/1 2025/9/30	2018/9/5 2025/9/4	2018/9/1 2025/8/31	2016/10/27 2023/10/26
燃え殻	○	○	○				
汚泥	○	○	○	○	○	○	
廃油	◎	○	○	○	○	○	
廃酸	○	○	○				
廃アルカリ	○	○	○				
廃プラ類	◎	○	○	○	○	○	○
紙くず	◎	○	○	○	○	○	○
木くず	◎	○	○	○	○	○	○
繊維くず	◎	○	○	○	○	○	○
ゴムくず	◎	○	○	○	○	○	○
金属くず	◎	○	○	○	○	○	○
ガラスくず等	◎	○	○	○	○	○	○
がれき類	◎	○	○	○	○	○	

○: 積替保管を含まない

◎: 積替保管を含む

b 許可番号

管轄	許可の種類	許可番号
広島市	産業廃棄物収集運搬業(優良)	07310010149
	産業廃棄物中間処理業(優良)	07320010149
広島県	産業廃棄物収集運搬業(優良)	03409010149
山口県	産業廃棄物収集運搬業(優良)	03500010149
岡山県	産業廃棄物収集運搬業(優良)	03301010149
島根県	産業廃棄物収集運搬業(優良)	03200010149
鳥取県	産業廃棄物収集運搬業(優良)	03104010149

c 事業の区分

産業廃棄物収集運搬業

産業廃棄物中間処理業 中間処理(破碎)

一般貨物自動車運送事業

(2) 施設等の状況

①設備概要

車両台数

車種	台数	備 考
8t脱着装置付コンテナ車	2 台	
8tクレーン付ダンプ車	1 台	
3t脱着装置付コンテナ車	1 台	
3tクレーン付パワーゲート車	1 台	18年度増車
3tパワーゲート車	2 台	20年度増車
1.5tパワーゲート車	0 台	21年度減車
合 計	8 台	なお別途営業車両1台あり

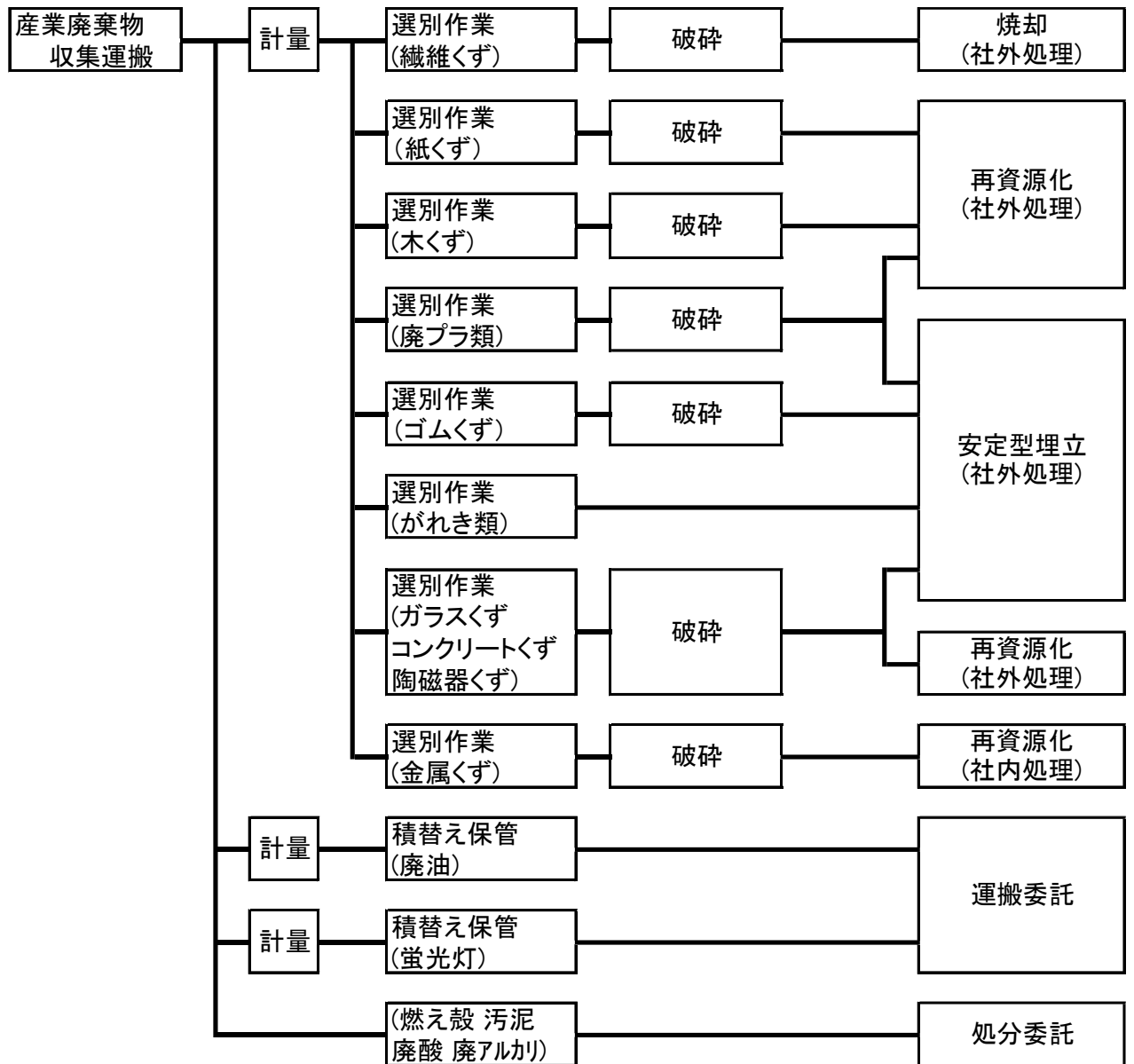
主要設備

名称	台数	備考
2軸せん断破砕機	1 基	20年度更新
40tトラックスケール	1 基	
2tフォークリフト	2 台	20年度減車
0.25m ³ バックホウ	3 台	

積み替え保管施設

名称	保管面積	保管上限量	備考
ヨシムラ環境整備(株)	64.15 m ²	95.84 m ³	

処理工程図



(注) 処理能力は、廃プラスチック類 4.83t/日、紙くず 4.21t/日、木くず 4.86t/日、繊維くず 2.81t/日、ゴムくず 4.60t/日、金属くず 4.83t/日、ガラスくず・コンクリートくず・陶磁器くず 4.61t/日 (8H)

(3) 処理実績

2022年度(2022年10月～2023年9月)

処理方法等		廃棄物等種類	処分方法等	処理量 (t)
(i)収集運搬		コンクリートくず		0
		廃油		29.63
		金属くず		467.36
		ガラス陶磁器くず		4.88
		紙くず		28.87
		廃プラ類		745.796
		木くず		50.85
		繊維くず		0
		ゴムくず		0
		がれき類		30.12
		燃えがら		0
		汚泥		0
		廃酸		0
		廃アルカリ		0.38
		石綿含有廃棄物		0.19
		水銀使用製品産業廃棄物		2.72
	収集運搬量合計			
(ii)中間処理		コンクリートくず	破砕	2.13
		金属くず	破砕	492.714
		紙くず	破砕	13.3
		廃プラ類	破砕	765.151
		木くず	破砕	51.12
		繊維くず		0
		ゴムくず		0
	うち 再資源化等	金属くず		492.714
		廃プラ類		501.381
		コンクリートくず		0
紙くず			13.3	
木くず			51.12	
再資源化等量小計				1058.515
中間処理合計				1324.415
(iii)最終処分				0
				0
				0
最終処分量合計				0
(iv)中間 処理後の 産業廃棄物	最終処分	廃プラ類		263.77
		コンクリートくず		2.13
		ゴムくず		0
		繊維くず		0
	再資源化等	金属くず		492.714
		廃プラ類		501.381
		コンクリートくず		0
		紙くず		13.3
		木くず		51.12
		再資源化等量小計		
中間処理後処分量合計				1324.415